

『人文学報』第110号（2017年7月）
（京都大学人文科学研究所）

[書評 小特集]

『現代思想と政治 —— 資本主義・精神分析・哲学』

（市田良彦・王寺賢太編，平凡社，2016年1月22日，624頁，6800円＋税）

以下に読まれる三つの書評は、2016年3月20日に開催された市田良彦・王寺賢太編『現代思想と政治 —— 資本主義・精神分析・哲学』（平凡社，2016年）公開合評会で評者を務めた，檜垣立哉，森川輝一，鵜飼哲の三氏に執筆いただいたものである。

『現代思想と政治』は、2011～2014年度にかけて、京都大学人文科学研究所の全国共同利用・共同研究拠点の活動の一環として開催された公募研究班A「ヨーロッパ現代思想と政治」（班長：市田良彦神戸大学教授）の共同研究成果報告書であり、同書についての合評会は、日本学術振興会の科学研究費の支給を受けて（2013～2015年度，基盤研究B「『現代思想』と政治 —— マルクス主義・精神分析・政治哲学を軸とする歴史的・理論的研究」），実質的に2015年度まで活動を継続した共同研究班最後の研究会であった。合評会当日は、各氏の講評に対して『現代思想と政治』論集の寄稿者それぞれからの応答が続いた。その討議総体の記録は、合評会に参加できなかった寄稿者からの書き下ろしエッセイも含め、2016年12月に週刊読書人から刊行された『徹底討論 市田良彦・王寺賢太編『現代思想と政治』@京大人文研』（Kindle版）に再録されている。ただし、本書評小特集に掲載される原稿は、合評会当日の口頭発表をもとに加筆を経てなった別稿である。

短い期間に、大部の論集について口頭発表，討議再録，書評執筆の度重なる依頼に快く応じて下さった，執筆者三氏に心から感謝したい。

（王寺賢太）